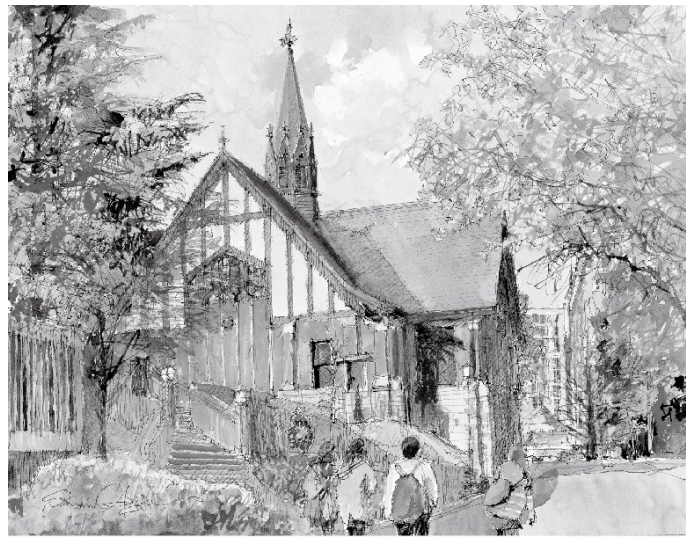


2024 年度（春学期）経済学部
ゼミナールガイドブック



COOL HEADS BUT WARM HEARTS
ALFRED MARSHALL

明治学院大学経済学部

井川 ジェニファー ゼミナール

演習のテーマ

Finding Leadership in Literature

演習の内容

In this seminar, we examine the concept of Leadership through both non-fiction and fiction. What characteristics make or break a Leader? Can we predict whether a person will be a successful leader or not based on those characteristics?

In the spring semester, students read non-fiction texts in English to prepare for class. During class, students are expected to participate actively and enthusiastically. As students are expected to write short summary and response papers, there is also instruction in academic writing.

In the fall semester, students read texts of fiction. Class discussion focusses on the character of the protagonist, and how that character influences the choices made. Students will also write short response papers.

With a better understanding of the concept of Leadership, it is hoped that students will be better equipped to choose good mentors and become good leaders themselves.

大野 弘明 ゼミナール

演習のテーマ

Financial Economics

演習の内容

【学習内容】

本演習では以下の二点を学びます。

- ・ファイナンスの標準的な内容を体系的に習得すること。
- ・コンピュータを用い、株価、利子率及び財務会計データなどの取り方、分析方法、データの解釈方法を習得すること。

【到達目標】

以上二点を習得することによって、『進路決定と卒業論文』を仕上げることを到達目標とします。

【ゼミでの2年間】

学生間の対話を重ねることを通じて得られるものは、上述の内容以上に大きな価値があると個人的に考えています。これまで懇親会、夏期・冬期ゼミ合宿、OBOG会などを実施してきました。企画から参加まで各学生に任せますが、ゼミの一員として積極的に参加し行動することを期待します。私もなるべく参加するようにします。

【OB・OG の進路】

卒業生は金融、不動産、建築、商社、アパレルなど多岐にわたって活躍していますが、銀行、保険会社、証券会社への就職比率が相対的に高いです。また、国内外問わず進学するという選択肢もあります。

【注意点】

本ゼミナールでは計算を避けて通ることが出来ません。現在出来ないことは全く問題としませんが、基礎から学習しますので徐々に慣れて下さい。ただし、高度な数学力を求めると言うよりは金融経済に関する直観的な思考と理解を高めることに重きを置くつもりです。

岡崎 哲二 ゼミナール

演習のテーマ

日本の経済発展

演習の内容

加藤 木綿美 ゼミナール

演習のテーマ

経営組織論・経営戦略論

演習の内容

本ゼミでは経営組織論・経営戦略論を学ぶ。

3年生では経営組織論・経営戦略論の標準的な内容を体系的に習得することを目指す。理論の理解を深めるため、理論を実際の企業活動に当てはめながら企業分析とプレゼンテーションを行う。また、経営に関するテーマについてのGD（グループディスカッション）、実際の中小企業が有する経営課題に対する提案活動などを行う。

4年生は卒業論文の執筆を中心に行う。卒論では理論的アプローチの簡易的な流れとして、フィールド研究からの理論化に挑戦する。すなわち、問いに対する仮説を立て、実際の現場でフィールドワークを行うことで仮説検証を行い、そこから何らかの理論を見出すというものである。経営に関して各自が関心のあるテーマを1つ決定し、資料文献調査を行った上で、インタビュー調査・アンケート調査のいずれかから研究方法を選び、まとめてもらう。テーマ例は以下の通りである。

- ・新業態ビジネスの組織動態：日本における Airbnb シェアリング・エコノミーホストの成功事例
- ・組織市民活動における動機付け要因：オリンピックボランティア参画の意思決定事例
- ・組織の経済学におけるモニタリング費用の国際比較：USED ファッションの事例
- ・組織における慣性と変革：バー業態変化の制度派組織論的解釈

ゼミではディスカッションやプレゼンテーションの機会が頻繁にあるため、自主的に考え発言・行動ができる学生、当該能力の向上を希望する学生を歓迎する。また、進路に対して真剣に考え努力している学生を歓迎する。

木川 大輔 ゼミナール

演習のテーマ

企業の経営戦略とビジネスモデルの研究

演習の内容

ゼミの基本的な軸は、デジタル社会における先進企業の経営戦略について、とりわけビジネスモデルの側面に焦点を当てて研究することです。

3年生では、実在する企業のビジネスモデルをいくつかの枠組みに基づきながら分析します。例えば、YouTube、TikTokなどの動画配信のプラットフォームビジネスや、Instagram、TwitterといったSNSのプラットフォームビジネス、あるいは、NetflixやDAZNといったサブスクリプションサービス、そして、いわゆる“ガチャ”を軸としたスマホゲーといった現代型のビジネスモデルのどのような点が優れているのか、あるいはそのビジネスモデルが成立する条件は何なのかといった点について議論しながら理解を深めます。

3年時の前半では、上記のような実世界で起こっている現象面を中心に上げますが、後半では、翌年の卒業論文執筆に備え、その背後にある理論を取り上げる割合を増やしていく予定です。

4年生では、卒業論文の執筆が活動の中心となります。3年時に学んだ企業の経営戦略やビジネスモデルを研究テーマの中心とします。研究のアプローチは大きく分けて2つが考えられます。1つ目は、3年次で学んだような、実在する個別企業や競合同士の競争を観察し、これまでの理論ではうまく説明ができない現象を深く分析し、データやインタビュー等で集めた根拠に基づき仮説（命題）を導き出す研究アプローチです。2つ目は、既存の理論に基づき仮説を構築し、アンケートやその他の方法で得られたデータの分析を通じて仮説を検証するアプローチです。

現時点ではとても難しいことに取り組むように感じるかもしれませんが、2年をかけてじっくりと力を養っていきましょう。卒業論文を書き上げた時の喜びや成長の実感は何にも代え難いものになると思いますよ。

また、ゼミでの活動を通じて、取組内容に対する知識、理解を深めることはもちろんのこと、社会に出た後に汎用的に求められる能力（例えば、文章作成能力やプレゼンテーション能力など、およびそれらを個人ではなくチームで準備することに取り組める力）を養うことをゼミのもう1つの狙いとしています。

工藤 健太 ゼミナール

演習のテーマ

データ分析を使って社会の課題について考える

演習の内容

近年、ビジネスの場でもデータを用いた実証分析が重要視されています。そのため、本ゼミナールでは、統計学や計量経済学を中心としたデータ分析の知識を得て、論文が執筆可能な水準となることを目標にします。2年間という限られた期間で卒論研究が完了することを目指します。そのため、参加者は意欲的にゼミに参加し、積極的にスキルを身に付けていくことが求められます。

(演習の進め方)

・3年次には、教科書を輪読し、プレゼンを行います。統計学・計量経済学の知識について整理し、Rを用いた分析も行う時間を設けます。輪読の内容などは、参加者の興味・関心を反映させる予定です。

・一通りの学習が終わったのち、4年次においては卒論の研究テーマを決め、データの収集や必要な知識の習得に注力します。定期的に研究の経過報告を行う機会を設けます。

(卒論研究のテーマ)

データを用いた実証分析であることが前提になりますが、卒論研究のテーマ・内容は参加者の自由です。

(例)

- ・不祥事などの特定のイベントは、企業の価値に影響を与えたか？
- ・近年の金融政策は、経済を活性化させるほどの効果があったか？
- ・野球などのスポーツについての統計的分析も卒論として充分取り扱うことが可能

(受講にあたっての注意)

・報告者(報告グループ)は特別な事情を除き、欠席は認められません。授業が成立しなくなるためです。

・本講義では、ゼミ開始時の数学・統計学・プログラミングの知識については特に問いません。ただし、実証分析が可能になる水準に到達するためには、参加者が意欲的に学習することが重要です。

小滝 秀明 ゼミナール

演習のテーマ

国際商取引論と実践的ビジネススキル

演習の内容

国際的な商取引における豊富な事例をもとに、全員が当事者の立場で議論して世界の第一線で通用するビジネス・経営のセンスとスキル、英語力を身に付けます。

毎回のゼミでは、様々なテーマでのロールプレイや会議、プレゼン、ディベートを通して、自然に司会・発言・質疑・問題解決などを体験できます。また、卒業生や業界の著名人ゲストを招いて多業種の事例や世界標準のビジネスの実情を学びます。

年間を通して4名の小グループで貿易商社を起業するビジネスプランを練り上げます。商材を決め、貿易相手国や販売・仕入先を定め、マーケティング戦略を考え、経費・資金繰りをマネージして決算書まで仕上げてみせます。自らが貿易商社を起業することで貿易と経営の両面を楽しく学べます。将来、起業はもとより部門経営、社内ベンチャー、子会社経営、独立開業などに活かせる実力を自然に身に付けられるわけです。

毎週のゼミではビジネスプランのプレゼンはもちろん貿易等に関する専門書を輪読して発表したうえで、全員で討議します。他大学ゼミとの共同研究や企業幹部を招いてのビジネスプラン発表会も行い、採用に繋がることも多くあります。

学生が自ら考え、体験・披露することに重点を置くのが我がゼミの特徴です。全員が何らかのかたちで毎週アウトプットして刺激し合いながら、世界が求める一流のビジネスパーソンを目指します。必ずや皆さんは「B ゼミでも一年でこれだけ成長できた」と驚き、将来への強みや自信を持てます。すでにゼミ生の多くが商社・金融・物流・観光・航空などの一流企業に進んで世界を舞台に活躍していることから、社会が我がゼミ生に寄せる期待の大きさが伺えます。

ゼミ第8期生よ来たれ、パッションを持って学び、世界から尊敬される一流になろう！

【小滝秀明：明治学院大学卒業、ロンドン在住 17 年、現在 レアメタル商社社長】

西原 博之 ゼミナール

演習のテーマ

演習のテーマ 国際経営論、異文化マネジメント、中国、台湾などの華人経済圏における企業の経営管理

演習の内容

同演習の研究対象は、「国際経営」、「異文化マネジメント」、「企業の海外進出」「組織の国際化」、「グローバル人材育成」、「インバウンビジネス」など、いわゆる企業の国際経営活動の「アウト」及び「イン」を題材として調査研究を行い、研究成果をまとめる。

研究論文のテーマは以上に関する内容となる。演習では国際経営に係わる知識を身につけて理解を深めることが目的である。したがって、演習を通して以下の能力を養う。

- 1) 情報機器を用いたプレゼンテーションの実践
- 2) 共同作業を通してレジュメ作成、報告を行うなど、プロジェクト管理能力の育成
- 3) ケース・スタディや実証研究を通して理論的な考察や分析能力の向上
- 4) 4 年間大学で学んできた集大成をまとめて卒業論文を作成し、期日に提出する。

演習では、以下の通りに進めていく。

第1に、国際経営に関する基本的な文献を輪読する。その際、少人数のグループにより、レジュメを作成して国際経営に関する基礎知識を養う。

第2に、国際経営に関する事例などを用いて討論を行う。その際、各グループが事前に課題を準備する。演習時間は、担当班が、プレゼンテーションを行った後、グループ間の質疑応答という形式で演習を進めていく。なお、事例に関連して実証研究などの方法論にも触れる。

第3に、卒業論文の執筆方法について、経済学部発行「卒業論文執筆の手引き」を用いて所定の形式を学ぶ。同時に、卒業論文のテーマの設定、フレームワークの作成、関連文献の収集及びまとめなどにより、設定した研究課題がふさわしいか、卒業論文にまとめられるか判断を行う。

卒業論文作成までの具体的な演習活動は以下の通りである。

- 1) 個々の研究テーマの設定（3 年次の秋学期に提出）
 - 2) 卒業論文タイトル及び研究計画の紹介（4 年次、春学期）
- * 報告、計画書の提出がない場合、秋学期の履修を許可しないことがある。
- 3) 中間報告（報告がなかった場合、卒論提出を許可しないことがある）
 - 4) 調査研究の結果についてプレゼンテーション（卒論発表会の準備など）
 - 5) 担当教員の許可を得た上で卒業論文を提出（年末までに原稿提出）

以上

藤田 晶子 ゼミナール

演習のテーマ

企業の開示情報とその分析 ―投資意思決定における財務情報と非財務情報の有用性―

演習の内容

企業の財務報告にかかる国際的な開示制度や会計基準をしっかりと理解し、それをどのように分析に活用していくのかを調査研究する。また、将来予測に不可欠とされる非財務情報にも焦点をあて、財務情報と非財務情報の関係や、非財務情報の課題などについて、検討をくわえていく。

具体的には、主として、次の内容を考えている。

- ① 国際的な開示制度とそのもとでの財務報告 ～情報と株価の関係
- ② 財務情報とその国際比較 ～J-GAAP と IFRS の差異
 - 財務情報から考える M&A の成否
 - 研究開発活動・広告宣伝費とその後の企業業績推移
 - ブランド力と企業業績 などなど
- ③ 非財務情報の役割と課題
 - ESG 情報の国際比較とその有用性
 - 人的資源に対する投資と企業業績
 - 統合報告書の役割とその分析 ～非財務情報と企業価値との関係
 - などなど

林 祥平 ゼミナール

演習のテーマ

組織行動論，経営組織論，人的資源管理論

演習の内容

本ゼミナールでは，組織・集団・人（そしてそのマネジメント）について学びます。組織も集団も人の集まりであるため，突き詰めれば本ゼミの関心は人そのものです。組織における人について心理学的アプローチから学び，深く考える目を養います。例えば，「どうして安い給料でもイキイキ働ける人がいるんだろう」「緊張感があつた方が頑張れるのはどうしてだろう」といった身近な疑問に目を向け，自分なりの答えを導き出し，説得力のある説明ができるようになることを目指します。

組織行動論はマネジメントの議論と表裏一体です。したがって，組織の中の人について学ぶ中で，「どうしたら従業員の強みを活かせるんだろう」「どうしたら仕事を楽しめるようになるんだろう」という管理の視点も大事にします。

3 年次は，テキストの輪読とグループワークに取り組みます。テキストには，組織内の個人心理や集団心理を扱った本を使い，広く基礎知識を身に付けていきます。また各回のテーマに沿ってディスカッションをし，考える癖をつけていきます。グループワークは3-4 人で組んでもらい，グループで決めたテーマについて学生が調べ発表し，議論します。4 年次には，3 年次の経験を活かして，各学生が興味のあるテーマを選び，卒業論文に取り組んでもらいます。

ゼミ合宿，他大学との交流など学生の意見を積極的に取り入れながらゼミ活動を行っています。本ゼミが学生にとってより良いコミュニティになるよう，自主的にゼミ作りに加わってくれる学生の参加を期待しています。